

躍

いきいき狭山人
ひと

奈良・薬師寺建築の流れを継承する心と技で 堂宮大工の持つ伝統の木造建築技術を 後世に伝えていきたい

古来より日本の神社、仏閣は、伝統的な木造建築を手がける堂宮大工によって支えられてきました。現在では新築工事のみならず、貴重な文化財の解体修理も行う大変重要な責務を担っています。かつては全国に数百人いた堂宮大工の継承者も、今では、百

人以下になつていくといわれています。

大森健司さんは、最後の堂宮大工といわれた人間国宝の西岡常一棟梁のもとでその技術、技法を学び、奈良・薬師寺東塔の調査や、西塔の復原に尽力した日本を代表する堂宮大工の一人です。

「私は秩父の出身で、幼いころから秩父夜祭を見て育ち、絢爛豪華な笠鉾かさぼこに憧れていました。大工の親方がそれを修理するのを見て、自分もやってみたいと思ったのが、この道に入るきっかけでした」と語る大森さんは、学校を卒業するとすぐに大工修業に出て、徒弟制度の中に身を置きます。直屬の上司の西岡棟梁は大変厳しい人でした。法隆寺の復原工事のことや古建築について、私は多くを学ぶことができました」と言うように、伝統技術は、棟梁から厳しく教え込まれることで受け継がれることを強調します。

平成12年には、ご自身の集大成である薬師寺で学んだ技術を、多くの若い人たちに伝え、優秀な技術者を育成したいとの願いから、木造伝統技術伝承教室を「ご自宅に開設し、後進の指導に当たっています」。まず国が定める一級建築士を取得してもらいます。そして個々の目標に合わせて、技術をどんどん教えていきたいと考えています。多くの優秀な職人が社寺建築の世界に入ること、私の喜びでもあります。修了者には、マイスターの称号を与えるつもりです」と、この教室にかけの情熱が伝わってきます。

一方、大森さんは建築関係者だけでなく、次代を担う子ども達や一般の人にも、日本の木造建築技術を知ってもらいたい」と、全国各地で講演を行い、学校教育の場でも活動しています。市内中学校から3日間、自宅の教室に生徒を受け入れた「3 Days チャレンジ」では、木工の基礎になる鉛筆けずりをはじめ、のこぎりやかんなを使った大工仕事を体験してもらいました。また、古建築の見どころなどを紹介する講演会では、京都奈良、鎌倉などを旅行する際に、建物のどこに注目して見ればよいのかがよく分かる」と、多くの方から好評を博しています。

ものづくりの国、日本が誇る堂宮大工の技術伝承と、木造建築の限らない創造性を求めて、大森さんはこれからも活躍を続けていきます。



設計の図面から、建物に命を吹き込みます
堂宮大工・一級建築士
大森健司さん (水野在住)



棟梁から弟子に受け継ぐ技術の真髄は、厳しさの中に生きています

オピニオン

子ども達の安全を見守っていききたい



清水政美さん
(北入曾在住)

地域の防犯活動や、子どもの見守りなどのボランティア活動を始めて、今年で5年目を迎えます。会社を退いてから、何か地域のために役立てないかと考えて始めたのが、子ども達の登・下校時での見守り活動です。

活動をしていて最近特に感じることは、自転車の無謀運転、さらに自動車の運転手が携帯電話を掛けながらや、お化粧、飲食をしながらなどの、いわゆる「ながら運転」をする方が多いことです。朝の通勤や通学の忙しい時間帯であることはとても良く分かりますが、ちょっとした不注意から取り返しのつかない事故を引き起こしてしまうことがあります。小学生などの小さい子どもが犠牲となることも少なくありませんので、運転手の皆さんには子どもの動きに、より一層注意を傾けていただきたいと思います。

最後に、これから定年を迎える団塊の世代と呼ばれる皆さんにも、積極的に地域活動に参加してもらえよう、地域と市が協力し合いながら呼びかけていきたいと思います。そして、子ども達が事故や犯罪に巻き込まれることのない、安全で安心なまちを実現していければと思います。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。「地域の安全は、自分達で守る」という共通の認識を持って取り組むことが、交通の安全確保や犯罪のない地域づくりにつながるものと考えています。市では、引き続き、地域の皆さんや狭山警察署などと連携しながら、安全で安心な地域づくりを推進するため、事故防止・犯罪抑止などの啓発活動を展開してまいりますので、ご協力をお願いします。

担当 交通防犯課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

皆さんも、ぜひ私たちの仲間になってみませんか。
問合せ北山ふく子さんへ
2954 5794

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ✉koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ...

汗のしみ込んだグローブ

私が大事にしている宝物は、高校時代に使っていた野球のグローブです。

当時、野球部に所属していた私は、監督にしかられながらも、厳しい練習に本気で打ち込む毎日を送っていました。外野手として出場した県の大会では、ベスト8まで勝ち上がることができ、この3年間は、これまでの人生の中で最も充実し、達成感があった時期だったことを覚えています。



山村 眞生さん
(笹井在住)



思い出がたくさん詰まった宝物です

最近、年に数回草野球をやる程度ですが、このグローブを見るたびに、楽しくもあり、苦しくもあったあのころが懐かしく思い出されます。

次回は、広瀬に住んでいる高校時代の友人を紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.333



健康第一、生涯現役を目指してがんばっています

新狭山体操クラブ

私たち新狭山体操クラブは、毎週水曜日、健康維持を目的に、40代から70代の会員17名で活動しています。もともとは、新狭山幼稚園の園児の母親が集まってできたサークルで、今では30年以上が経過しました。

講師を中心に、音楽に合わせて手足を動かしたり、ストレッチなど、だれでも楽しみながらできる無理のない体操で、しかも自分のペースで進められるので、長く続けている方もたくさんいます。また、毎回、時間があつという間に過ぎ、帰るころには、心身ともにすっかりリフレッシュしていることが実感できるのも、大きな特徴の一つです。

幅広い年代の人が一緒になって気持ちのいい汗を流すことができ、運動は、あまりないと思えますし、会員の一人は、「このサークルに入ってから、操を始めから、腰痛やひざの痛みがなくなつた」と大変喜んでいました。